

## 性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会

(第25期・第12回) 議事要旨

- 1 日時 令和4年11月4日(金) 10:00~12:00
- 2 場所 オンライン
- 3 出席者 : 渡辺 美代子、名越 澄子、河野 銀子、高瀬 堅吉、野尻美保子、伊藤 公雄、  
安田 仁奈(以上、名簿順)  
(事務局) 内山 貴裕、大越 詳一

### 4 議事要旨

#### (1) 学術フォーラムの振り返り(資料1-1、1-2)

- ・当日、200人以上の参加あり、事後のYouTubeは460回の視聴があった。
- ・視聴者からは多くの具体的な質問が寄せられ、関心の高さがうかがわれた。

#### (2) 見解の経過報告(資料2-1、2-2)

- ・委員長から、資料2-1、2-2に基づいて、意思の表出の申出書提出後の経過について説明があり、一部の文言を削除して提出することを確認した。
- ・事務局から来週の対応委員会に提出され、承認され次第、公表となる。

#### (3) 今後の活動について

##### ●見解公表後の活動について種々議論し、下記のことが決まった。

- ・内閣府男女共同参画局と文部科学省を訪問して報告し、意見をもらう(日程調整は事務局)。
- ・学術フォーラムを核とする内容の本として出版する(出版社について伊藤委員)。
- ・学術会議内部で波及させるため、各部の男女共同参画・ジェンダー関連分科会で共有する(第三部=野尻委員、第二部=名越委員、第一部=河野)。また、男女共同参画学協会連絡会や人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会、諸学会、高専(河野)にも情報提供。
- ・親委員会である男女共同参画分科会から、学術界全体の問題として共有する働きか

けをしてもらう（渡辺委員長）。

・来期になるが、有志でサイエンスアゴラでイベントを開催し、その書籍化を検討（野尻委員）。

●議論において以下のような意見交換が行われた。

- ・『学術の動向』は今後季刊となることや査読が入ることを勘案すると優先度は低い。
- ・学術会議叢書は書店に置かれないので、一般の人が買える出版物がよい。
- ・波及力のある方との対談動画、漫画、絵本など、若い世代に影響ある手段も検討する。
- ・LGBTQ+を含む多様な性の人に関わることが科学の質が高まることにつながるという、多様性に関くメッセージの発信が大事である。